

自己評価報告書(最終報告)

報告者

幼年発達支援コース
／塩路 晶子

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

学生の実践的指導力を培うために、これまで行ってきたように、授業の中で保育の現場に学生と共に参加しながら、指導をすすめていく予定である。また、現場での学びをさらに深めるために、ディスカッションやワークシート等によって学生自身の振り返りも行う予定である。授業によっては、保育現場で課題になっていること等、映像資料も用いながら具体的なイメージを持って指導をすすめる予定である。

2. 点検・評価

学生の実践的指導力を培うために、学部授業「乳児保育」においては、子育て支援センターの活動に学生と共に参加しながら、指導をすすめていった。また、現場での学びをさらに深めるために、学部授業「保育内容環境」では、保育材や保育教具を実際に作ったり、ワークシート等によって学生自身の振り返りも行った。「乳幼児教育研究法」では、附属幼稚園の子どもの遊びを計画し、指導案を作成し、実施するといった、幼稚園教員として必要な資質を養う授業を行った。大学院の授業においては、保育現場で課題になっていること等、映像資料も用いながら具体的なイメージを持って指導をすすめた。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

大学で学ぶ歴史的・理論的内容と、現在の保育現場での課題を結びつけることができるような授業を行う予定である。

また、学部1年生の担任として、学生が有益な学生生活を送ることができるよう支援したい。

2. 点検・評価

学部1年生の担任として、新入生合宿に引率し、ふれあい実習に3日間引率し(大学院長期履修生を含む)、学修キャリアノートをチェックするなど、学生が有益な学生生活を送ることができるよう支援した。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

科学研究費補助金を受けている「ハワイ日系移民の就学前教育に関する史的研究」の研究代表者として、また、「幼稚園における教育実習性、新任教員の力量形成のための保育データベース開発研究」の研究分担者として、研究を遂行する予定である。

2. 点検・評価

科学研究費補助金を受けている「ハワイ日系移民の就学前教育に関する史的研究」の研究代表者として、平成23年7月に、アメリカ合衆国ハワイ州に調査に行き、その成果を鳴門教育大学研究紀要に執筆した。また、科研費「幼稚園における教育実習性、新任教員の力量形成のための保育データベース開発研究」(代表: 田村隆宏教授)の研究分担者として、研究を遂行した。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

大学院教務委員会委員を務める予定である。

2. 点検・評価

大学院教務委員会委員を務め、専門部会「教育実践フィールド研究検討専門部会」のメンバーとしても討議を行った。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

附属幼稚園が文部科学省から研究開発学校として指定を受けている「幼小接続のカリキュラム開発」に関する研究において、研究担当者としてたずさわる。

2. 点検・評価

附属幼稚園が文部科学省から研究開発学校として指定を受けている「幼小接続のカリキュラム開発」に関する研究において、研究担当者としてたずさわりの、附属幼稚園の研究紀要に原稿を執筆した。また、平成23年5月25日徳島市幼稚園教育研究協議会第1回研究会において講師を務め「幼児の自我形成について—かかわりの中で育つ—」という演題で講演を行った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

学生の教員採用試験のために、模擬面接官や、作文指導等を行い、教員採用率の向上に貢献した。